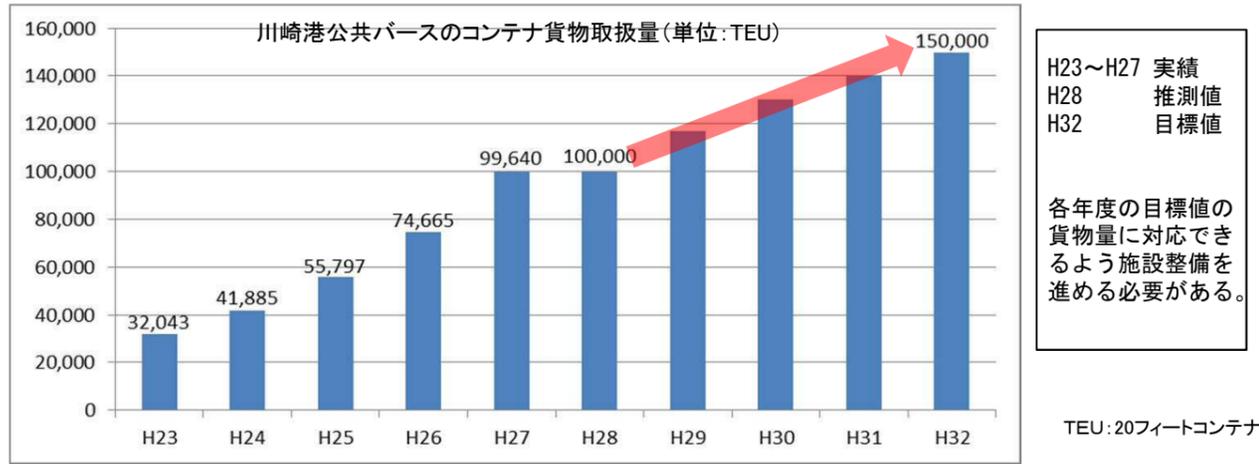




川崎港コンテナターミナルは、平成24年度以降、貨物取扱量が順調に増加している。この機を逸することなく着実に施設の整備・改修を進めることにより、更なる新規航路の誘致、貨物取扱量の増加を図る。

1 貨物取扱量の推移と当面の目標

平成26・27年度は、2年連続で貨物取扱量が前年度比30%以上増加した。平成28年度も前年度比で、やや増加することが見込まれている。タイ等からの新規航路の誘致も見据え、当面、平成32年度に年15万TEUを目標に積極的なポートセールスを行っていく。



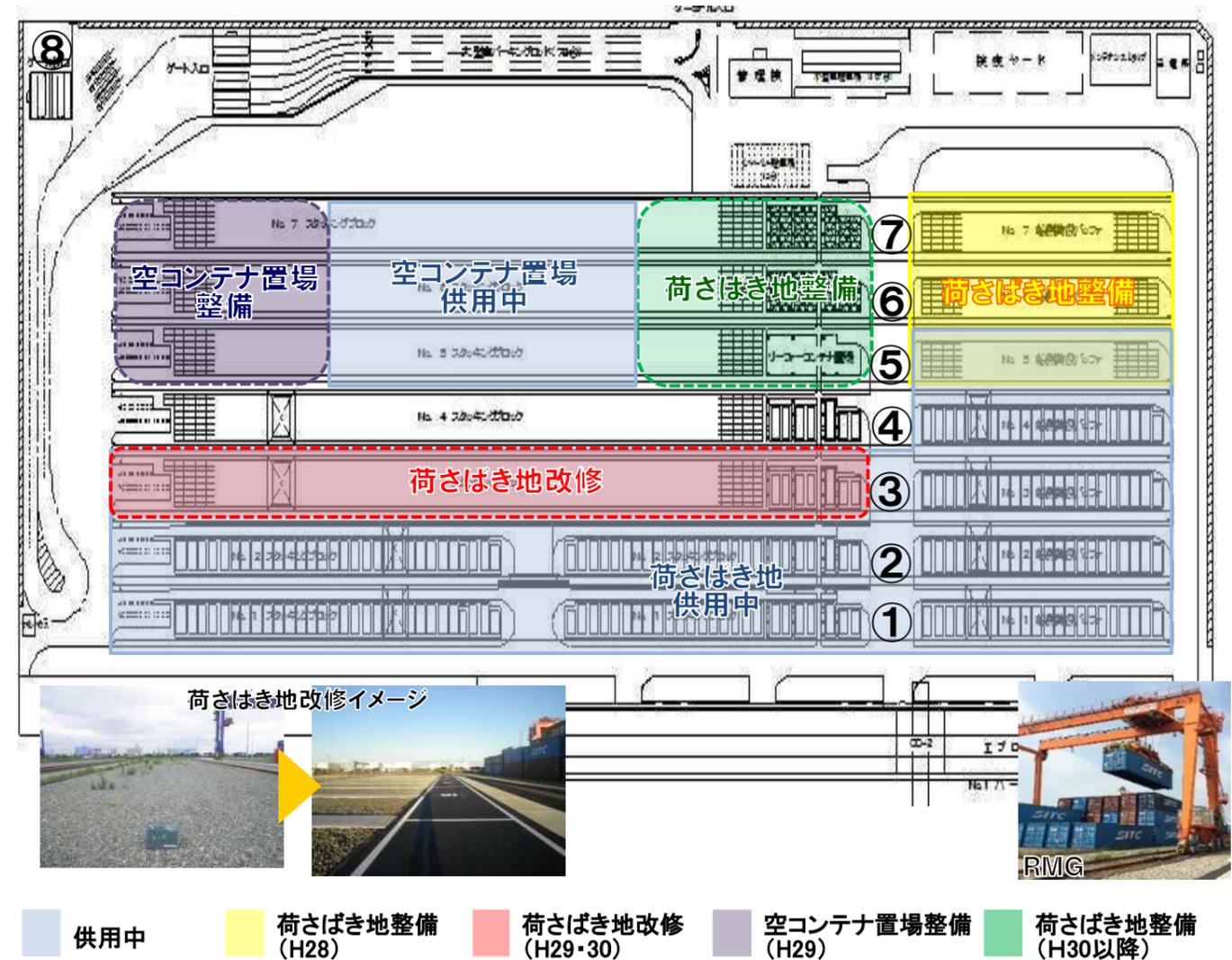
2 ターミナル施設の現状と対応策

コンテナ貨物取扱量年15万TEUの目標達成に向けて、コンテナターミナル各施設の現状の課題についての的確に対応していく。

施設	現状	対応策	見込額
荷さばき地	現在の年間取扱能力は11~12万TEUが限界。貨物取扱量の増加を図るには、コンテナ(実入り、空とも)の年間取扱能力の向上が必要	③レーン(3図 ■)の荷さばき地改修(井桁、トラック走行帯設置)	約4.2億円
		空コンテナ置場(3図 ■)の拡張整備	約0.9億円
		⑤~⑦レーン(3図 ■)の荷さばき地整備	約6.0億円
トランスファークレーン	③レーンに設置したRMG2基は老朽化による不具合があるが、機器部品の調達ができなく補修不可能	③レーンの改修にあわせてRMG2基を更新 ①②レーンに設置の4基は大規模改修により延命化済み	約5.5億円

RMG: レール式トランスファークレーン

3 ターミナル施設整備の考え方 (H29~H32)



●スケジュール(案)

年度	H29	H30	H31	H32
荷さばき地改修 ③レーン	設計	施工	★供用開始	
空コンテナ置場整備 ⑤~⑦レーン	設計	施工	★供用開始	
荷さばき地整備 ⑤~⑦レーン		設計	施工	★供用開始
RMG更新 5・6号機	設計・製作		★供用開始	

※ 整備の実施は貨物量の状況により判断する。

その他の施設整備 (時期未定)	<ul style="list-style-type: none"> ・ゲート前の渋滞対策 ⇒ 出口ゲートの開設 ・夜間荷役の効率化及び安全確保 ⇒ 照明設備の設置
--------------------	--